

1. 事業の目的

4. 事業の成果等

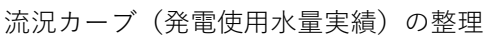
下赤発電所の使用水量実績（2006 年～2024 年）から流況カーブを作成し、流量特性を分析した。また、オーバーホールによる中規模改良、FIT/FIP 制度適用など複数のシナリオを設定し、更新及び改修・補修の方針を設定した。

2. 事業の内容

- ### 3. 令和7年度の事業実施概要

- 既往資料の掌握や現地踏査を行った上で、「①オーバーホールに併せた中規模改良」のほか、「②FIT/FIP 制度の適用」を見据えた更新及び改修・補修が必要な施設と範囲を整理し、主要構造物の基本設計（概略検討）を行った。

- 「①オーバーホールに併せた中規模改良」のほか、「②FIT/FIP 制度の適用」を見据えてリニューアル事業を行った場合の比較検討を行い、事業性評価を行った。



- 設定ケースに基づき事業性評価を行った結果、現在の制度・経済状況下においては、いずれのケースも費用超過となり、事業性は認められなかった。

ケース		発電原価	60 年収支	評価
1	OH による中規模改良 (既設流用)	28.17 円/kWh	-8,723 百万円	×
2	FIT 適用右岸 1,000kW 規模 (Q=13.20m3/s)	54.80 円/kWh	-9,492 百万円	×
3	FIT 適用右岸 200kW 規模 (Q=3.00m3/s)	94.61 円/kWh	-7,619 百万円	×
4	FIT 適用左岸 200kW 規模 (Q=3.00m3/s)	94.27 円/kWh	-7,891 百万円	×

5. 事業スケジュール

調査項目	令和7年度(実績)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画準備及び現地踏査												
主要構造物の概略設計												
施工計画及び仮設備計画												
数量計算及び工事費積算												
事業性の評価												

